

令和2年度（前期）助成団体及び活動概要

令和2年度前期の助成事業として、6事業（長期継続活動支援：4事業、短期活動支援：2事業）への支援を決定しました。

※ただし、「子供囲碁教室交流実行委員会」「福岡県柏陵高等学校環境科学コース」については新型コロナの影響により事業中止（助成金返還済み）

【長期継続活動支援事業：4事業】

番号	団体名 (所在地)	活動名及び活動内容	
	活動期間	参加対象	人数
1	環境ネットワーク「虹」 (福津市)	<p>【活動テーマ：環境保全活動の推進】 地域の里田・里山の生物多様性保全プロジェクト2020</p> <p>福津市の里田・里山において、農業体験や自然観察・生物調査を行い、その結果をグループワークで話し合い、生物多様性の保全意識を醸成する。</p> <p>里田では、田植えから稲刈りや脱穀等、年間を通した米づくり体験や収穫米の調理体験、田んぼの生き物を調査し、生物多様性に気づかせる。里山では、外部講師を招いた自然観察会や福津市に生息する希少生物等の調査を行って生き物マップづくりを行う。</p> <p>また、3年間の集大成として、市民に向けた報告会を開催し、子どもたちが学んだ成果について、展示や発表を行う。</p>	
	平成30年度～令和2年度	4歳～12歳	延180名
2	特定非営利活動法人 福岡津屋崎子ども 劇場 (福津市)	<p>【活動テーマ：その他】</p> <p>和太鼓・しの笛体験事業 ～まつりで生き生きと発表しよう～</p> <p>日本の伝統楽器である和太鼓・しの笛の体験事業を通して、豊かな表現力を育み、異年齢間の仲間の中でコミュニケーション力を培うことを目指す。</p> <p>また、地域の祭りやイベントで発表の場を設け、目標に向けて最後まで努力することを学ばせる。</p> <p>今回は、同団体が主催する「子どもフェスティバル」を集大成と位置付け、オープニングの演奏を担うとともに、地域の夏祭りでも太鼓としの笛を使った発表を行う。</p>	
	平成30年度～令和2年度	幼児～高校生	20名

番号	団体名 (所在地)	活動名及び活動内容	
	活動期間	参加対象	人数
3	子供囲碁教室交流 実行委員会 (久留米市)	【活動テーマ：その他】 子供囲碁教室合同交流会 29年4月に県内12の子供囲碁教室が参画し、囲碁を通して社会貢献 できる青少年の育成を目的に組織を立ち上げ、活動を始めた。 囲碁を社会性の発達や人格形成、論理的思考能力育成に適した頭脳ス ポーツと位置づけ、囲碁を学ぶ子どもたちがより幅広く交流できる場を 提供することにより、向上心を持たせ、棋力だけでなく人間性の向上を 目指す。今回は、3年間の集大成として、囲碁合宿を計画する。	
	平成30年度～令和2年度	7歳～18歳	100名
4	福岡県立柏陵高等学校 環境科学コース (福岡市南区)	【活動テーマ：環境保全活動の推進】 「環境」の視点からSDGs 11「住み続けられるまちづくりを」に貢献 県立柏陵高校環境科学コースでは、環境に携わる人材育成を目指して いるが、生徒たちのボランティア活動として、朝倉市杷木での農作業や 那珂川市南畑でのピオトープ調査を実施した。 「環境」をテーマとするが、学校の授業を離れ、生徒たちが自主的に ボランティア活動を行い、また、大学生となった卒業生も含めて、地域 課題の解決に意識を持ち、行動できる人材を育成する。 今年度は、地域課題の専門家と協働して、高校の生徒たちも指導に加 わり、中学生を対象とした農業ボランティアや小学生を対象とした自然 環境調査を行い、現地で地域課題を把握し解決のための意識を醸成する 取り組みを行う。	
	令和元年度～令和3年度	11歳～18歳	65名

【短期活動支援事業：2事業】

番号	団体名 (所在地)	活動名及び活動内容	
	活動期間	参加対象	人数
①	直方市青少年育成 市民会議 (直方市)	<p>【活動テーマ：環境保全活動の推進】</p> <p>子どもに教わる環境ぼうさい</p> <p>一昨年の豪雨により遠賀川が氾濫し、大きな被害を受けた経験から、子どもたちに防災・減災の意識を醸成する機会を設け、子どもたち自身が学ぶとともに、大人に発表する活動を行う。</p> <p>校区や学年が異なる小学生が、防災について事前学習を行った後、チームを編制して町を歩き、危険箇所などを子どもたちの視点で見出し、話し合ったうえでマップを作成する。</p> <p>子どもたちが公民館等へ講師となって出向いて作成完成させたマップ活動の過程で学んだことを発表するなど、大人にも防災・減災についての自分たちの気づきを伝える取り組みも行う。</p>	
	令和2年度	6歳～12歳	30名
②	特定非営利活動法人 私善 (太宰府市)	<p>【活動テーマ：食育の推進】</p> <p>自然栽培に触れ、子どもたち自らが未来の社会を考える</p> <p>無農薬無化学肥料栽培の農産物の普及のため、生産者と消費者に農産物の理解を深めてもらう活動を行っている。</p> <p>生産者の協力を得て、農産物が自然の中でどのように栽培、収穫、販売されているのか、そして食物として口にしているのかを一連の流れとして、子どもたちが体験する。</p> <p>今回は、これまでの米づくりとともに、化学肥料を使わず綿花とマリーゴールドの栽培にも取り組み、収穫後は糸を編んで染め物作品までを体験し、自然栽培から製品化することで環境保全意識を学ぶ取り組みを行う。</p>	
	令和2年度	4歳～12歳	180名(20名×9回) (9割が小学生)